

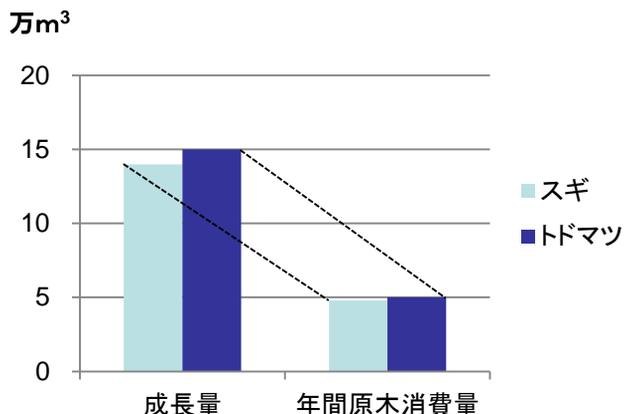
道産針葉樹材を活用した製品開発

株式会社ハルキ 企画・開発室 鈴木正樹
渡島総合振興局 林務課 佐藤司



研究の背景・目的

現在、人工林のスギ・トドマツは成熟期を迎えており、間伐材から大径材を含め、需要拡大と資源の循環利用を図る必要があります。渡島管内のスギ、トドマツの成長量は、スギ14万m³/年、トドマツ15万m³/年に対し、年間原木消費量がスギ4.8万m³/年、トドマツ5.0万m³/年に過ぎず、増え続けています。以上の理由から、需要拡大を図ることが急務となっています。



研究の内容・成果

◆プロジェクト内容

本プロジェクトでは、地域材(道産針葉樹材)の付加価値向上を図るため、各種関係機関の専門的見知からデザインと新素材の製造技術を活かして製品を試作し、これを公共性の高い場所(函館空港)へ実証展示することで、木材の良さを広く周知させることを目的としています。

◆プロジェクトメンバー

事業主体:(株)ハルキ

構成員:(株)内田洋行、パワープレイス(株)、函館空港ビルディング(株)

研究機関:林産試験場、協力:渡島総合振興局 林務課

◆コンセプト

木の感触、木の匂い、木の堅さ、柔らかさ。木の柱、木の床、木の天井、木の滑り台。私たちは、ずっと昔から木を伐り出し、木を加工し、木の家に住み、木の道具を使ったり、いつも木と共に暮らしてきました。森は私たちを育む大切なもので、木はその豊かな恵みでした。木という存在を通じて、森のこと、地域のこと、そしてそれを育て、育てて来た先人達や沢山の関わった人のことを知ること。そして、感じる。ハコダケ広場は大人も子供も、木から沢山のことを感じ、豊かな創造性を育む場として創りました。

黒板ユニット、すべり台ユニット、迷路ユニット、広場ユニットなど各パーツに分かれており、広さや空間に合わせて自在に変化させることが可能です。また、置くだけなので建物に絡む工事は無く、短時間で組立が可能です。



今後の展開

今後は来場者のアンケート調査、材料の経年変化を観察結果し、改良・改善を行う。そして、地域材(道産針葉樹材)利用量増に向けた販売ルートの確立や雇用促進への取り組みを展開、安定供給に向けたパートナー企業の開拓を行う予定です。

※本内容は平成25年度森林整備加速化・林業再生事業「地域材利用開発」により行われました。